

全体を通して

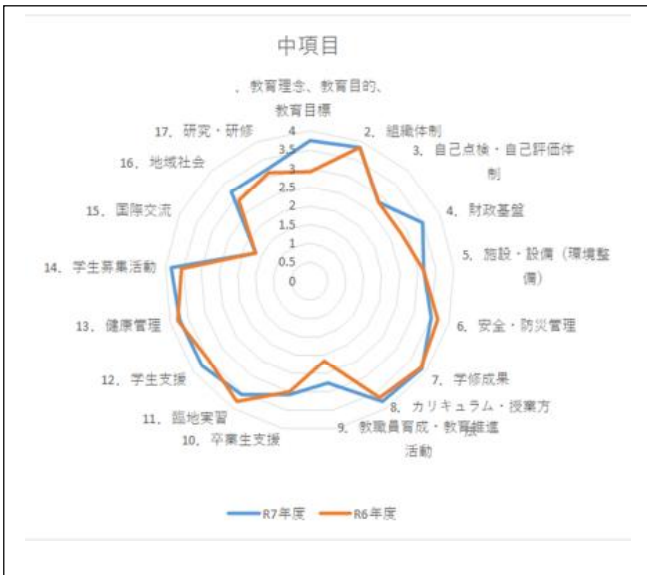
令和7年度の活動として、令和6年度の自己点検・自己評価結果を公表した。自己点検は、各分掌担当で点検し、問題はなかった。また、学校活動をより評価しやすい内容となるよう、一部の評価項目および評価文言を見直し、令和8年3月に教員6名を対象として自己評価を実施した。

4段階評価の平均3.2以上をおおむね良好とする基準でみると、「国際交流、地域社会」を除く大項目は良好であった。令和6年度と比較すると、大項目はすべて上昇し、中項目では「安全・防災管理」「臨地実習」「健康管理」が低下した。なお、前年度との比較については、評価内容の変更による影響も踏まえて捉える必要がある。また、教員6名による回答であることから、一人ひとりの回答が平均点に与える影響が大きいことにも留意する必要がある。

今後は、低下した項目の要因を確認するとともに、学生による授業評価・実習評価アンケート等の結果と照らし合わせ、教育活動の改善につなげていく。

表. 大項目と平均点		
	令和7年度	令和6年度
I. 教育理念、教育目的、教育目標	3.75	2.92
II. 学校運営	3.37	3.27
III. 教育活動	3.42	3.29
IV. 学生支援	3.73	3.64
V. 学生の受け入れ	3.83	3.44
VI. 国際交流、地域社会	2.45	2.28
VII. 研究、研修	3.22	3.11

表. 大項目、中項目と平均点			
大項目	中項目	R7年度	R6年度
I. 教育理念、教育目的、教育目標	1. 教育理念、教育目的、教育目標	3.75	2.92
II. 学校運営	2. 組織体制	3.83	3.83
	3. 自己点検・自己評価体制	2.83	2.83
	4. 財政基盤	3.5	2.83
	5. 施設・設備（環境整備）	3.17	3.17
	6. 安全・防災管理	3.5	3.67
	7. 学修成果	3.88	3.83
III. 教育活動	8. カリキュラム・授業方法	3.79	3.65
	9. 教職員育成・教育推進活動	2.78	2.17
	10. 卒業生支援	3.08	3.00
	11. 臨地実習	3.58	3.79
	12. 学生支援	3.73	3.50
IV. 学生支援	13. 健康管理	3.72	3.78
	14. 学生募集活動	3.83	3.56
V. 学生の受け入れ	15. 国際交流	1.67	1.67
	16. 地域社会	3.22	2.89
VII. 研究、研修	17. 研究・研修	3.22	3.11



I. 教育理念、教育目的、教育目標

平均点は3.75点で、昨年度より0.83点上昇した。教育理念・教育目標の達成に向け、ディプロマポリシーを意識した教育活動に取り組んだ成果と考える。また、これまで学生が教育理念・教育目的等をどの程度理解しているかを問う内容であった評価文言を、オリエンテーションやホームルームで各ポリシーを周知しているかを問う内容へ変更したことも、評価の上昇に影響したと考える。

今後は、周知を継続するとともに、学生の理解状況についても確認していく。

II. 学校運営

平均点は 3.37 点で、昨年度より 0.10 点上昇した。組織目標に基づいて業務を遂行していることや、社会の変化に応じてハラスメントへの対応を進めていることが、評価の上昇につながったと考える。

財政基盤は 0.67 点上昇した。これは、評価内容を財政基盤の理解から、財政基盤を意識しているかを問う内容へ変更したことが影響したと考える。

組織体制、自己点検・自己評価体制、施設・設備は前年度と同値であった。

一方、安全・防災管理は 0.17 点低下した。学校安全計画に基づき、安全対策や防災対策を実施しているが、施設・設備の状況が評価に影響した可能性がある。今後も、学校安全計画に基づく取組を継続していく。

III. 教育活動

平均点は 3.42 点で、昨年度より 0.13 点上昇した。カリキュラム改正の移行段階を経て、講義・演習・実習を体系的に進める体制が整ってきた。また、授業・指導方法の充実に向け、教員一人ひとりが尽力し、協働して取り組んだ成果と考える。

一方、臨地実習は 0.21 点低下した。これは、小項目である「実習時のインシデント・アクシデントを分析し、学生指導に生かしている」の評価が 3.5 点から 3.0 点と低下した。前年度に比べ、実習時のインシデント・アクシデントの指導方法を変更したことが影響したと考える。今後は、インシデント・アクシデント事例の分析と共有を進め、学生指導に生かすとともに、授業評価・実習評価アンケートを活用し、教育活動の改善を進めていく。

IV. 学生支援

平均点は 3.73 点で、昨年度より 0.09 点上昇し、おおむね高い水準であった。

一方、健康管理は 0.06 点低下した。これは、小項目である「慢性疾患等のある学生に支援をしている」の評価が低かったことが影響したと考える。慢性疾患をもつ学生への支援については、学生のプライバシーに配慮する必要があるため、支援内容や対応状況が関係する教員以外には分かりにくい場合がある。また、どのような対応を「支援」と捉えるかが教員によって異なっていたことも、評価に差が生じた一因と考える。今後は、学生本人の同意とプライバシーに配慮しながら、支援に必要な情報は関係する教員間で適切に共有し、緊急時の対応など重要な事項は全教員で共有できるよう、情報共有の方法を確認していく。

V. 学生の受け入れ

平均点は 3.83 点で、昨年度より 0.39 点上昇した。学生募集活動の内容を教員間で共有したことが、評価の上昇につながったと考えられる。

一方、定員未充足や圏域の少子化に加え、学生募集や学校情報の発信方法が限られていることも課題である。今後も、実施可能な方法を検討しながら、学生募集活動の充実に努めていく。

VI. 国際交流、地域社会

平均点は 2.45 点で、昨年度より 0.17 点上昇した。

国際交流は 1.67 点と同値であった。独立した科目は設けていないものの、看護学概論で国際看護に関

す話題をり上げているほか、英会話の授業では複数の外国人講師による講義を行う機会を設けており、国際交流に触れる機会は確保している。一方、国際看護に関する情報提供や学習機会は十分ではないため、今後は、デジタル媒体の活用も含め、国際看護や外国人患者への対応に関する情報提供を進めていく。

地域社会は 3.22 点で、昨年度より 0.33 点上昇した。地域行事や活動への参加を通して、ボランティア活動や地域との関わりを学ぶ機会を設けていることが、評価の上昇につながったと考える。今後も、地域医療を担う看護師の育成に向け、地域や社会に目を向ける取組を継続していく。

VII. 研究、研修

平均点は 3.22 点で、昨年度より 0.11 点上昇した。令和 7 年度は、学校全体で「令和 7 年度青森県看護教育研究会研究発表会」の企画・運営に取り組んだことが、評価の上昇につながったと考える。

今後は、研修会に参加しやすい環境づくりも含め、研修参加を支える体制について検討していく。